

令和7年度 タウンミーティング

会津若松駅前都市基盤整備 基本計画（案）について

会津若松市 まちづくり整備課

■趣旨は、

市民の皆様と

市で作成した会津若松駅前都市基盤整備基本計画（案）
について意見を交換すること

です

■タウンミーティングでの説明では

○基本計画の内容についてご説明します。

■本日いただいた意見について

いただいた意見は、**整備の設計や今後の運営等へ反映していきます。**

事業費との関係、設計、運営上の検討の中で、反映できないものもあることをご理解ください。

より良い施設となるように、準備を進めていきますので、忌憚のないご意見をお願いします。

目次

1. 基本計画(案)の目的
2. 駅前周辺の課題
3. 整備方針・計画図
4. 駅前広場の活用方針
5. 概算事業費
6. スケジュール

1. 基本計画(案)の目的

この基本計画(案)において、会津若松駅前の現状の課題を解決することを目的としており、駅などを拠点としたまちづくりを進め、**高齢化社会への対応、人口減少社会への対応、シビックプライドの醸成・観光振興**を果たすことを大きな目的としています。

基本計画の構成

会津若松駅前
都市基盤整備
基本計画(案)

①基本計画概要

⑤事業手法

②駅前周辺の課題

⑥概算事業費

③整備方針

⑦スケジュール

④駅前広場の活用方針

今後、パブリックコメント(11月10日～12月9日)を実施し、年度内の策定および公表を目指しています。

2. 駅前周辺の課題

① 交通施設としての安全性・利便性の課題

利用者の安全性・利便性



歩行者と自動車
が交錯する歩行者通路



駅前広場を横断する
歩行者

周辺道路環境の改善



朝夕渋滞する
東西道路



歩行者が横断できない
駅前交差点

② まちの顔・玄関口としての課題

まちの顔、観光の玄関口としてふさわしい 景観形成



駅前に広がる駐車場



駅前の物流施設

都市拠点としての利便性向上



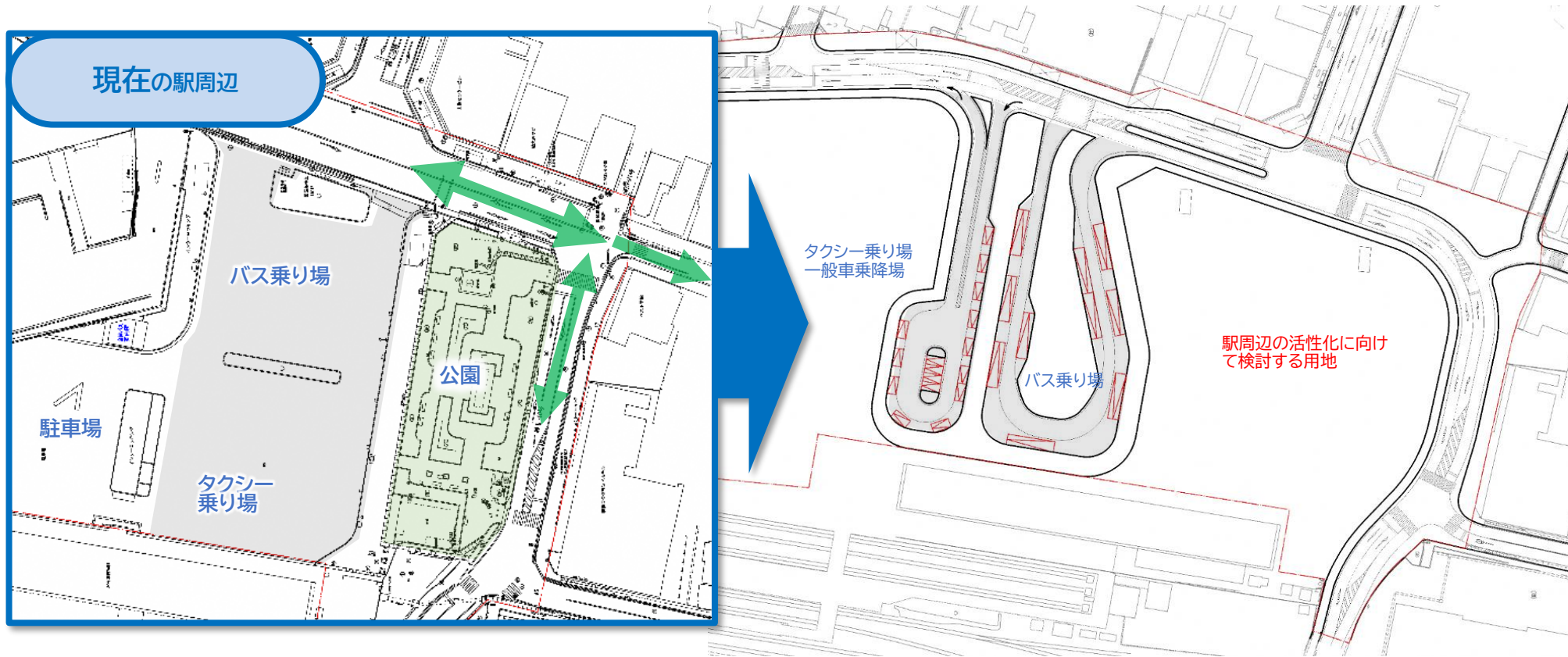
滞留空間が少ない
駅前施設



買い物できる場所が
少ない駅周辺

3. 整備方針・計画図

駅前ロータリーと周辺道路は図のと通りの改良を計画しております。

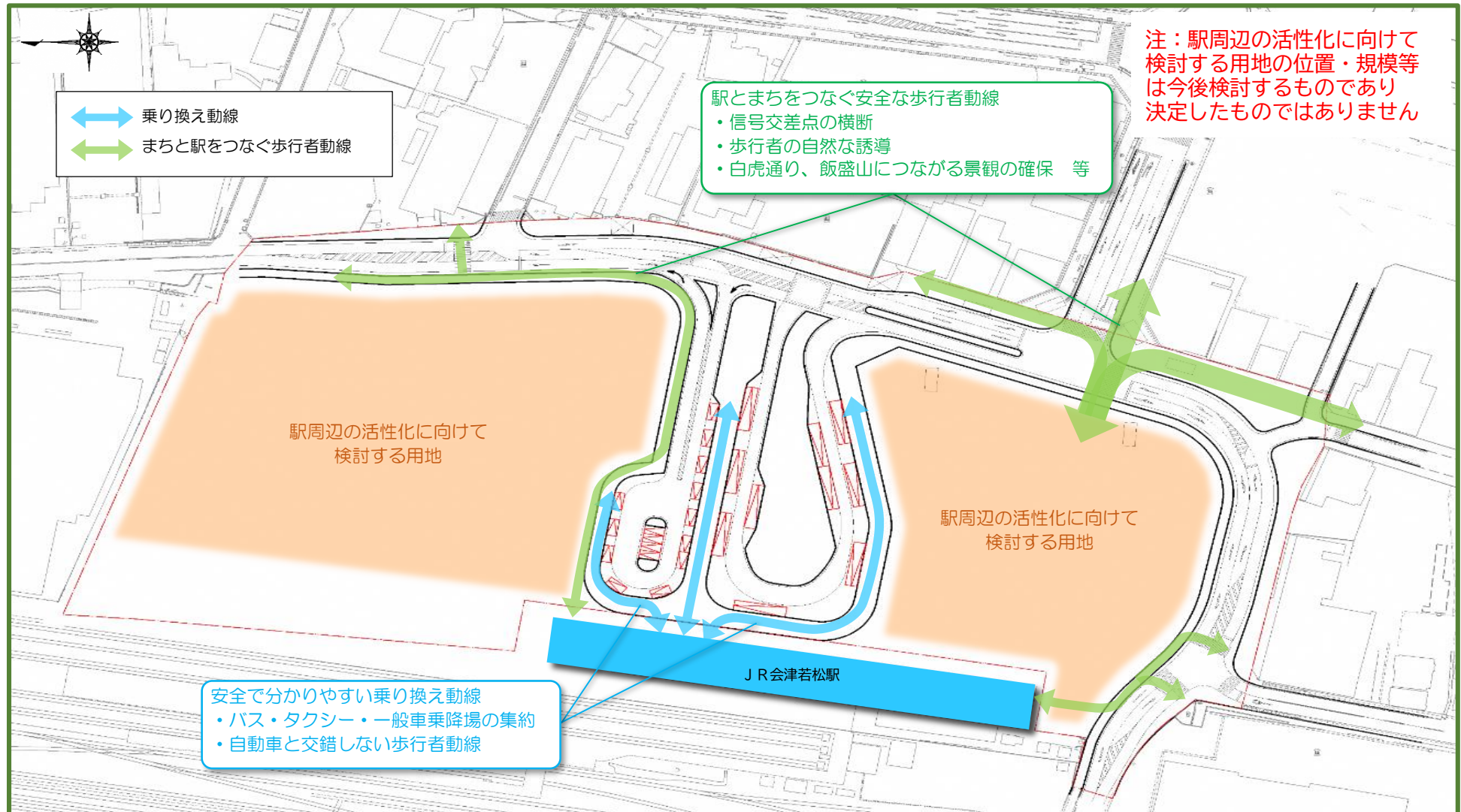


主な改良箇所

- 歩行者と車両の動線を分離したロータリーとし安全対策を図る。
- 駅前の交差点はT字にすることで単純化し渋滞対策をする。
- 東西道路は主動線を明確にすることで渋滞対策を図る。

3. 整備方針・計画図

- 歩行者と車両の動線を分離することで分かりやすく利用しやすい駅前広場とします。
- 駅前周辺の活性化に向けて検討する用地の配置・規模等は、今後、協議・調整を進めます。



3. 整備方針・計画図

駅周辺の将来イメージ

自動車の空間
バスとタクシー・一般車の
ロータリーが分かれ、
安全で使いやすい乗り場
となります

駅周辺の全景
駅前に大きな広場空間が
広がり歩行者と自動車の
空間が分けられています

快適な乗り場
バス等の車乗り場には落
ち着いたデザインのシェ
ルターが設置され、快適
に乗り換えができます

4. 駅前広場活用の方針

これまでの利用者アンケートなどによりとりまとめた会津若松駅前に求められる主な機能として、下記の3つとなっております。

機能1: 市内外のアクセス拠点機能

イメージ…駐車場、駐輪場、レンタサイクル、レンタカーや次世代交通の利活用など



機能2: 情報集約・発信機能

イメージ…アンテナショップ、チャレンジショップなど



機能3: 滞在コミュニティ形成機能

イメージ…学習スペース、カフェ、シェアオフィス、ミーティングスペースなど

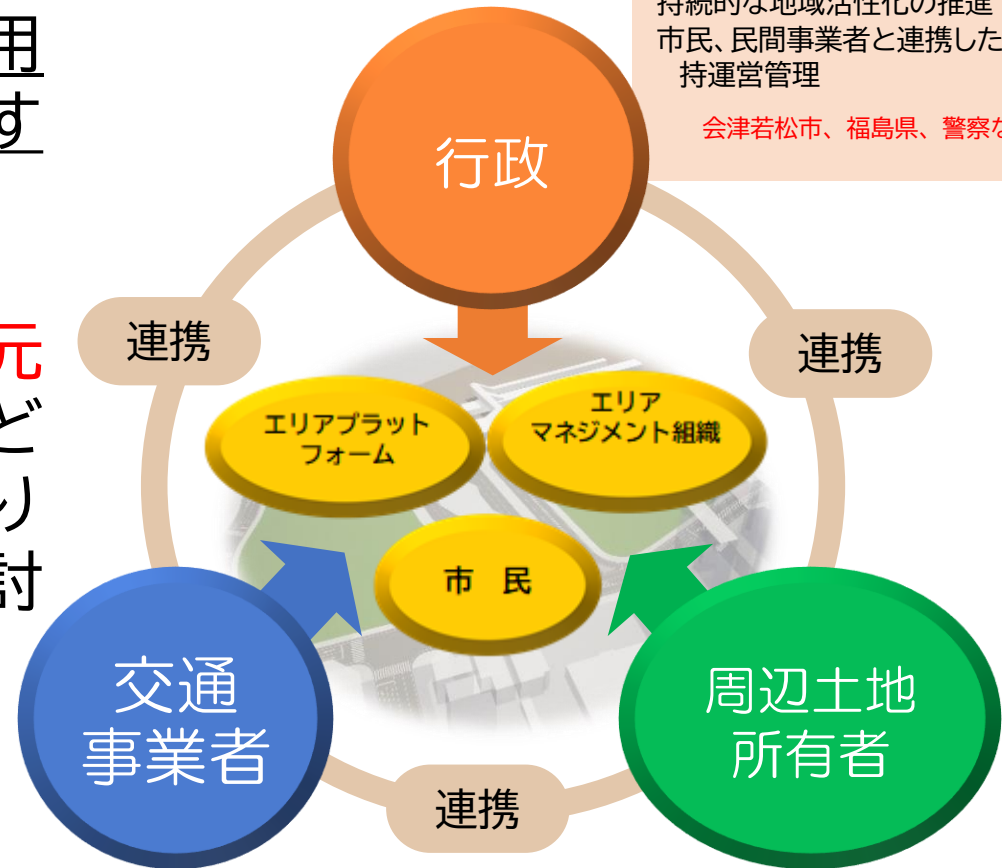


⇒ 求められる機能1、機能2、機能3の具体的事業の内容については、今後、検討を進め、本事業の着工前までに確定していきます。

4. 駅前広場活用の方針（検討体制）

行政、交通事業者、周辺土地利用者が連携し、駅前広場を活用したい人（事業主体）を支援する形とします。

ポイントとして事業主体は**地元の方**や**市のまちづくり団体**などとし、市民の皆様の見解を取り入れながら駅前広場活用を検討していきます。



【本事業の目的と期待する事業効果】
市民生活の充実と利便性の向上
持続的な地域活性化の推進
市民、民間事業者と連携した活動と維持運営管理

会津若松市、福島県、警察など

【本事業の目的と期待する事業効果】

利用者の安全、利便性、定時運行の実現
利用者の増加
高齢化社会に対応した公共交通の促進と、次世代交通の検討と推進

鉄道、バス、タクシー事業者など

【本事業の目的と期待する事業効果】

地域価値の向上
不動産価値の向上とその有効活用、売上や賃借料収入の増加
駅を含めた周辺地区の関係者と連携した、人を呼び込む取り組みの推進

周辺事業者、JR東日本、JR貨物など

5. 概算事業費

概算事業費については下記のとおりを想定しております。

概算事業費

消費税10%を含む

区 分	金額（単位：百万円）
公共施設整備等（周辺道路、ロータリー、造成費）	1,671
移転補償費等（公共インフラ移設、支障物の移転補償）	1,143
調査設計・事務費等	401
合 計	3,215

※事業費は現時点の概算であり、整備内容の追加や今後の資材高騰等により上昇の可能性があります。

維持管理費

区 分	項 目
維持管理費	ピロティ（バス乗降用屋根）の定期点検、消融雪施設・園路灯の電気代、日常の維持管理費用など

6. スケジュール

■調査・計画期（概ね5年間程度を想定）

JR東日本、JR貨物と基本協定を締結、都市計画変更、事業認可の手続きを進めます。

■事業期

事業認可を基に、ロータリー整備、道路改良、宅地造成を進めます。

公共交通機能を継続しながら施工する必要があるため段階的に整備を進めます。

整備完了後、土地区画整理事業の換地処分を行います。

